





TK-04 光厳寺

真言宗豊山派の泰長山光厳寺は、建武2年(1335)開基の山城国醍醐寺三宝院の末とされる古刹です。始め平野村創建といい、その後田端村へ移り、延宝8年(1680)頃に現在の地に建立されました。一時は高瀧神社の別当寺を務めています。本尊は両界大日如来坐像二軀で、脇の不動明王坐像は島村圓鉄の作、堂内正面の欄間彫刻は初代「波の伊八」武志伊八郎信由の作で、いずれも市指定文化財です。



TK-05 高瀧ダム

市原市民にとって母なる川である養老川は、長きにわたり多くの恵みを与えてくれる一方、集中豪雨のたびに甚大な氾濫被害をもたらしました。昭和30年代以降、京葉臨海工業地帯の発展と人口増加により、水資源の確保が急務となり、この地にダム建設計画が進み、平成2年(1990)に水害軽減、農業用水等の安定取水、水道用水の確保を目的とした多目的ダムとして完成しました。



TK-06 山口の地蔵

音信山の麓地蔵谷に佇む木造の地蔵菩薩坐像は、ヒノキ材の寄木造で、肌部分は漆箔、着衣部分はベンガラで彩色されています。高さ273cmで、坐像の地蔵菩薩として日本最大級を誇ります。顔は面長で、衣文構成とともに禅宗の黄檗宗系の系譜をひく特徴を持っています。ホトトギスの名所で知られた音信山に、現在の池和田光明寺があつた際の本尊と言われ、県指定文化財になっています。



TK-07 三峯神社

高瀧湖の高台に立つ本郷字天神台の大銀杏は、県内最大級の巨木です。三峯神社は、その根元に祀られ、秩父の三峯神社から勧請されたものです。猪鹿の害から農作物を守る狼を神使として崇め、さらに盜難や災難全般の守護神としています。本郷の三峯講は、毎年代参者が参詣しお札を配布しています。祠のとなりには菅原道真を祀る天満神社や、出羽三山登拝の供養碑があります。



見学される皆様へ

- ★歴史遺産は、郷土の歴史文化を伝えてくれるかけがえのない財産です。個人所有物であったり、私有地に置かれている場合もありますので、マナーを守って見学しましょう。
- ★駐車場は基本的にありませんので、公共交通機関を利用しましょう。路上駐車や無断駐車は厳禁です。
- ★社寺の境内や墓地は、信仰の対象です。行事が行われていたりする場合もあるので、迷惑にならないように行動しましょう。
- ★ゴミは必ず持ち帰ってください。
- ★他人の家や社寺など建物の中に、無断で入らないようにしましょう。
- ★見学の際は、所有者の許可を得るのが基本です。特に団体で見学されるような場合は、事前に了承をとるようにしてください。
- ★保存や管理の都合上、公開日が決まっていたり、見学ができない場合もあります。事前に確認して、公開日に見学しましょう。

いちはらフィールドマップ

制作・発行：市原市教育委員会

市原歴史博物館 〒290-0011 千葉県市原市能満 1489 番地 Tel.0436-41-9344 Fax.0436-42-0133

令和4年3月 第1版第1刷発行

I'Museum Field

高瀧



TK-01 高瀧神社

白鳳元年に瓊瓈杵尊(ニニギノミコト)を祀ったとされ、高瀧神と号した旧県社です。かつて加茂大明神と称され、里見義康や徳川家康から寄進を受けています。社域を覆う自然森は県指定、享保12年(1727)建築の社殿は末社を含め市指定文化財です。境内には、樹齢350年以上の杉がそびえ、句碑や灯籠など多くの石造物があります。春は花嫁祭り、秋には三社の神輿が勇壮に渡御します。



TK-02 旧加茂村跡

高瀧ダム建設以前、現在の加茂橋周辺には高瀧神社門前集落の加茂村がありました。加茂村は、宮下・柏野・馬場で構成され、養老川の曲流に囲まれた微高地に宮下と馬場の集落があり、宮下には紺屋や、豆腐屋、小料理屋や舟宿、商人宿などが軒を連ねていました。川の氾濫は、藍や加茂菜の栽培に適した肥沃な土壤を育みました。度重なる水害回避のため、ダムが建設されました。



TK-03 藤原式揚水機実大模型

養老川の中上流域は、川と耕作地の高低差が大きく、利水に長年苦労していました。市内では藤原治郎吉により明治12年(1879)に池和田、高瀧地区には明治28年に1号機が建造されます。その後流域8か所で稼働し、多くの水田が開発されました。揚水機は地形に合わせて設計され、川をせき止め、流水で水車と水箱を運動させて揚水する仕組みで、後にタービン式やモーター式に替わりました。

I'Museum